

香南市立中学校「ジェンダーレス制服」 の取り組みについて



2025. 7. 2

各中学校の現状

令和6年度第1回香南市総合教育会議におきまして、「ジェンダーレス制服」について協議・検討がなされました。

誰もが選択して「ありたい自分の服装（自分らしい制服）」で登校することができる環境を整えられるように、校則の見直しも含め検討を進めています。市内4中学校の昨年度からの取り組みの報告と現状は以下のとおりです。

学校	導入時期	導入までのスケジュール	導入実績	備考
香我美中学校	令和7年度	①デザインのアンケートを小5～中2年生対象に実施（ネクタイ・リボン）し、令和6年10月までに決定 ②令和6年12月の小6体験入学の際に、制服案提示 ③令和7年1月に注文	1年生（ほとんど） 2年生（なし） 3年生（なし）	・全学年の追加制服として実施（ブレザー、ズボン、スカート） ・学校運営協議会で確認済
赤岡中学校	令和7年度	①2年前に生徒会総会で新制服の意見が出る ②令和6年度の生徒会を中心に協議開始 ③令和6年2学期の面談時に保護者へ資料とサンプルを展示し、意見徴収 ④令和7年1月に導入決定（中学校説明会で周知）	1年生（全員） 2年生（1名） 3年生（1名） +海外からの転校生	・全学年の追加制服として実施（ブレザー、ズボン、スカート） ・学校運営協議会で説明済

各中学校の現状

学校	導入時期	導入までのスケジュール	導入実績	備考
夜須中学校	令和8年度	<p>①令和6年度、生徒総会においてジェンダーレスの視点から制服変更について提案があり、他校の状況等の調査を開始</p> <p>②令和6年度末、職員会で協議および生徒会でワークショップを開催</p> <p>③令和7年4月、生徒会から全校生徒に説明および新制服の展示、参観日にて保護者への説明を実施</p> <p>④令和7年5月21日、職員会にてポロシャツについて校則案と日程の確認</p> <p>⑤令和7年6月10日、生徒総会にて制服にポロシャツ追加と校則案を提示</p> <p>⑥令和7年6月14日、参観日にて小学校児童保護者に経緯等を説明</p> <p>⑦令和7年6～7月、ネクタイ・リボンのデザインのアンケート実施</p> <p>⑧令和7年7月3日、デザインの決定</p>	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和8年度～10年度の3年間は移行期間 ・ 夏服はポロシャツを採用 ・ 男女共通でネクタイを購入（リボンでも可）

各中学校の現状

学校	導入時期	導入までのスケジュール	導入実績	備考
野市中学校	令和8年度	<p>①令和5年度に生徒会を中心に提案がある</p> <p>②令和7年5月～10月にデザインを検討する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制服検討委員会の設置 ・制服検討委員会の開催（3回程度） <p>⇒基本デザイン・素材・附属品等を決定していく</p> <p>③プロモーションの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新制服発表会 ・保護者への説明 ・校区の小学校保護者への説明 <p>④令和8年1月～3月に採寸・納品・販売の実施</p> <p>⑤令和8年4月から新制服導入</p> <p>⑥令和8年4月から令和10年3月の期間を旧制服との併用期とする</p> <p>⑦令和10年4月からは新制服に完全移行</p>	—	<p>※令和5年度生徒総会での要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○女子だからスカートという考えは古いので、スラックスを許可してほしい ○男子のように羽織って体温調整したいので、夏期のみ夏服の上にカーディガンの着用を認めてほしい <p>※令和5・6年度生徒会の要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制服だけ変えてもダメ。生徒のジェンダーレスへの人権意識を変えていく必要がある ○私たちの思いを次の世代へ、制服の見直し協議を続けてほしい <ul style="list-style-type: none"> ・制服検討委員会委員（生徒会・学校管理職教員・学校運営委員会委員・PTA役員）

ジェンダーレス制服導入のねらい

ジェンダーレス制服⇒性別に関係なく自由に着用できる制服
(ブレザー、ズボン、スカート)

メリット

- スカート・スラックスが選べて動きやすくなる
- ブレザーは合わせを左右自由に変えられる
- 追加制服なので、今までの制服も着用可能
- 現在の制服より安価

以上のように、メリットの大きいジェンダーレス制服ですが、制服の導入で終わるのではなく、日頃からジェンダーレスに関する学習を実施し、「男性だから」「女性だから」といった性別を理由に固定的な役割や意識を取り除き、ジェンダー平等や多様性へ配慮した取り組みにつなげていく必要があります。